

日販連通信

第46号
2012年6月20日発行

発行者：日本販売農業協同組合連合会
中塚 敏春

住所：〒151-0053
東京都渋谷区代々木2-5-5
新宿農協会館

電話：03-3375-6399 Fax：03-3375-6637

Eメール：info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp

福島農民連産直農協

日販連加入を総代会で議決

「震災復興、脱原発、農民の心はひとつ」

福島に大支援の輪を

■矢崎会長が歓迎のメッセージ

6月16日の福島農民連産直農協の総代会で、本会加入議案が可決されました。

福島農民連産直農協の20年来の大阪新婦人との米の産直が今回の原発事故により中断され、本会を通じて山形県余目町農協が米の代替支援をしてきました。

母体の福島県農民連と本会は震災復興、脱原発の運動を協同して進めて来ました。福島県農民連は原発事故後に東京電力に損害賠償を農家のみなさんと一緒に取り組み、大きな成果をあげています。さらに6月5日に関西電力と大阪市を訪問し大飯原発の再稼働をやめるよう10人の農家と抗議しました。20日には福島県内の多くの農家とともに福井県庁、大飯原発に再稼働反対の申し入れを準備しています。

日販連では福島農民連産直農協の加入を歓迎し、共に連帯して福島県の農業の再建に全力を尽くす所存です。矢崎会長からの歓迎の談話も届いています。(後掲)

福島農民連産直農協の佐々木健洋参事は「全国のみなさんが福島県に対して何ができるか。それは頭で考えるのではなく、まず福島県に来ていただき、避難区域解除の実態、地域住民の気持ちや生活のありのままを自分の目で見ていただくことです。津波被害もそのままですし、原発事故が地域にもたらしたものがどれほどのものかを見ていただきたい。大飯原発再稼働は今の福島県民の気持ちを逆なでするもので絶対に許せないし、政治判断などで済まされる問題ではない」と語っています。

本会では同農協の桃、梨などの果実の生協への提案、松川組合長の地元須賀川のきゅうりを愛知県のカット業者に提案するなど、事業面での支援体制を急いでいます。

大阪よどがわ市民生協の大西理事長さんからは「関西の消費者と福島の産地の温度差がありすぎる。福島の現実をこの目で見て、そして自分たちに何ができるかを模索することが重要」と3月の福島視察全国交流会にご自身で参加しての感想を述べています。

矢崎和廣日販連会長の歓迎のメッセージ



福島から勇気と元気をいただきました

この度、福島農民連産直農協が総代会において日販連への加入を正式に決議頂き、心より感謝申し上げます。また、この決議は、今後日販連が事業並びに運動を進めるにあたり、多くの会員や役職員に大変大きな勇気と元気を下さったことも併せて感謝致します。

今、TPP問題、消費税増税問題、原発問題と民主党政権下では国民イジメ、農業潰しが進められています。特に、消費税増税に関しては、民自公3党が密室合意し、強行採決までしようとしています。

日販連も2005年に農民連に加入させていただきました。以来、ともに農業と農家の経営を守り、安全な食料の供給にも取り組んでいます。何としても農業、農家潰しの民主党政権に審判を下さなければなりません。

「一人は万人のために、万人は一人のために」の協同組合の崇高な理念のもとで、一つ一つは小さくても共に闘う事で協同の輪を広げ、成果を勝ち取りましょう。

日販連への加入に対する歓迎と感謝を送らせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



交流と体験

茨城県ひたち野農協(5月26日)



恒例のひたち野農協飼料用米の田植え

今年3回目となる田植え交流会。好天に恵まれ、田植え日和となりました。当日は空に不思議な虹が出ていました。

東都生協からは19名（大人9名、子ども10名）＋引率1名の参加。挨拶と自己紹介、そして農協からの田植えの説明後、10時50分頃から田植え開始。10aの縦長の田んぼの両サイドから植えていきました。

片側1.5mくらいは、最後に田植え機で植えるために空けて植えます。

子どもたちはほとんどが素足。泥の感触が良かったようで、泥にまみれておおはしゃぎの子がいました。1時間もすると田んぼは苗で埋まっていき、空けていたスペースも手植えすることになり、結局田植え機の出番はなし。参加者皆さん、特に子どもたちが大奮闘でした。

昼食メニューは、釜炊きごはん（毎回恒例、農協菊地専務が炊飯担当、絶品です）、ポトフ（供給センター長崎の小玉じゃがいも入り）、ひたち野こめ豚のベーコンとウィンナー、ひたち野 穂の香卵の温泉卵、生卵で卵かけご飯、ひたち野農協の養鶏農家小幡さんからの差し入れのメロン（赤肉・青肉）、茨城乳業からはタマゴプリンとメロンプリン、やさと農協からは東都極小納豆をいただきました。調味料にはヤマキの有機醤油、東都ストレートつゆ。東都生協の食材をふんだんに使ったシンプルメニューですが、田植えの後の食事はおいしく、お腹いっぱいになりました。

食後には、飼料用米、ひたち野 穂の香卵について学習。参加者からは「お米を収穫した後は何を植えるのですか?」「食べる米とえさになる米の違いは何ですか?」等々質問が出されました。

福岡八女農協(5月12～13日)

竹林保全のために、たけのこの穂先を切る



2010年6月に東都生協と福岡八女農協の竹林保全協定書締結後初めての産地での交流会。東都生協の参加者は一様にたけのこ好き、お茶が好きに加え、八女に一度来てみたいとの思いで参加されている方がほとんどで、竹林でも茶園でも生産者や農協からの話に真剣に耳を傾け、かつ体験を存分に楽しんでいる様子でした。

天気にも恵まれ、竹林の香り、たけのこや新茶の香り、また美しい景色の数々に現地でしか味わえない貴重な体験となりました。

日程は2日間とはいえ現地滞在は正味1日の短い行程で、八女農協管内の立花地区、黒木地区の2ヶ所をまわるだけでも結構な移動距離と時間でしたが、農協によるこの時期ならではの的を絞ったスケジュール組みをしていただいたおかげで、大きなトラブルもなく円滑に進行することができました。



みなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。 アドレス: info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp